

第7回草津市総合計画審議会 会議録

■日時：

令和2年6月24日（水） 14時00分～16時00分

◆場所：

草津市役所2階 特大会議室

■出席委員：

赤星委員、井上委員、上野委員、喜田委員、肥塚委員、小寺委員、清水委員、田中(進)委員、塚口委員、土山委員、中嶋委員、中島委員、中村委員、馬場委員、三浦委員、南委員、宮城委員、宮下委員、森田委員、谷地田委員、山下委員

■欠席委員：

安里委員、宇野委員、角谷委員、北村委員、田中(里沙)委員、森本委員、山口委員

■事務局：

橋川市長

総合政策部 田中部長、金森副部長

総務部 黒川副部長

まちづくり協働部 岡田副部長

環境経済部 田中副部長、高岡副部長(資源循環担当)

健康福祉部 田中副部長

子ども未来部 河合副部長

都市計画部 松尾副部長

建設部 生田副部長

上下水道部 奥山副部長

教育委員会事務局 南川副部長

経営戦略課 小川課長(総合政策部理事(草津市未来研究所・経営戦略担当代理))

危機管理課 舟木課長(理事(公社担当)兼危機管理監代理)

企画調整課 小川課長、宇野課長補佐、村上副係長、力石主査、山田主査

傍聴者：

2名

1. 開会

●開会にあたって、橋川市長より挨拶

●事務局

草津市総合計画審議会設置条例施行規則第5条第2項に基づき、委員の半数以上の出席という要件を満たしており審議会が成立していることを報告。

委嘱替があった委員の紹介。

橋川市長は公務につき退席

2. 審議

(1) 第6次草津市総合計画 基本構想（案）について

●事務局

<資料1について説明>

●会長

基本構想（案）については、これまでも協議を重ね、意見を反映させながら作成してきたものであり、最終確認という視点で御意見をいただきたい。将来ビジョンについて、特別委員会ではもっと短くという意見もあったとのことだが、同様に御意見があれば願います。

●委員

特別委員会からも指摘があるように、「ひと・まち・ときをつなぐ」と「絆をつむぐ」は意味が重複しているように思う。表現を検討してはどうか。

また、「学校教育」について、新型コロナウイルス感染症による一斉休校によってリモート授業などが行われていることから、IT教育に関する記載をしてはどうか。

●事務局

1点目については「ひと・まち・ときをつなぐ」ことにより生まれた「絆をつむぐ」ことで、誰からも愛されるふるさとになっていくという視点で整理をしている。

2点目については、これまでからICTを活用した教育を推進しているところであり、ICT教育などの内容は基本計画の中で記載したい。

●委員

P16からの新型コロナウイルスについての追記部分について、「感染症の世界的大流行に対する備えが必要」「的確かつ迅速な対応ができるよう備える」といった記載があるが、ここで挙げられた目的をどのように実現していくのか、個別計画とのつながりを記載するなど、今後、基本計画を策定していく中で、目的意識を挙げるだけではなく、体系的を持った記載がされていくとよいと思う。

●会長

基本計画の中で、記載の仕方を深めていく必要がある。

●委員

「魅力あふれるまち」について、YMITアリーナ、今後整備されるプールの記載ができないか。

●事務局

基本計画・個別計画等での記載を検討する。

●委員

「コミュニティ」について、社会福祉協議会、コミュニティ事業団は、市の中間支援組織として、協定を結んでいるが、中間支援組織に関連する記載は必要ないのか。また、

「地域福祉」について、上段では「包括的相談支援体制の充実」、下段では「相談体制の充実」とあるが、それぞれどのような内容なのか。また、相談業務等の記載が中心となっているように思うが、市としての考え方を教えてほしい。

●事務局

1点目については、基本構想では具体的な名称は省略させていただいており、基本計画の中での記載を検討する。

2点目については、まずは相談体制の強化が急務であると考えており、このような記載としている。

●会長

上段は地域共生社会に対応しているため「包括的相談支援体制」としており、下段は生活に困窮している方に特段焦点を当てているため「相談体制」としていると思うが、「支援」の使い分けについては、再確認してはどうか。

●事務局

検討する。

●委員

「SDG s」の視点を踏まえたまちづくりを進めますとあるが、P30以降、SDG sについての記載がないように思う。

また、「SDG s」は2030年までの目標となっており、総合計画の途中でこの年限を迎えることになるが、どのように対応するのか。

●事務局

SDG sの視点を踏まえ、P30以降は記載している。なお、基本計画の中では、各基本方針にSDG sのロゴを記載し、具体的な関係性を整理する。

また、現段階で2030年以降どのようになるかはわからないが、目指すべき方向性は変わらないものとする。

●委員

2015年までMDGsというものがあったので、その後、SDGsに変わったので、おそらく、第2期基本計画の途中あたりで、SDG sの次の目標が出てくるのではないかと思うので、その時に新しいものを盛り込んでいくとよいと思われる。

●会長

そのときには改めて議論をすべきと考える。

●委員

新型コロナウイルス感染症などにより、地域コミュニティの活動が停止することなどへの対策が必要ではないか。また、障害のある方へのサポート体制など、障害福祉のところで記載してもよいのではないか。

●事務局

現段階では、新型コロナウイルス感染症などの記載については、『社会情勢の変化の「安全・安心なまちづくりに向けて」』、『まちづくりの基本目標の「防災」』に記載している。また、今回の新型コロナウイルス感染症などに対しては、将来ビジョンの「人々（ひと）のつながり」が重要であると考えている。

●委員

将来ビジョンがもし目標だとすれば、基本目標はオブジェクティブになる。オブジェクティブということは、アクションプランの前の小さい目標になる。目標の中にオブジェクティブなアクションプランが全て入っているという解釈でいいか。

●会長

将来ビジョンとは、未来に向かってなりたい姿を示すものであり、目標、それ自身ではない。

●委員

幹線道路は、どのような道路を示すのか。平野南笠線なども含まれるのか。

●事務局

幹線道路については、都市の骨格となる道路であり、平野南笠線などの都市計画道路、浜街道などの主要地方道などを示している。

●委員

「誰もが安全・安心という快適な道路環境の実現を図ります」ということだが、昨今自転車も危ないと感じる機会も多い。安全な自転車走行ができるような整備についてなど、第5次総合計画にはあった歩行者や自転車などの視点に触れてほしい。

●事務局

第5次総合計画では「道路・交通」と1つの分野であったところを、第6次総合計画では「道路」「交通」として分割している。御意見の内容については、基本計画の中での記載を検討する。

●委員

3点質問したい。まず、P27 について、草津川では、さくらフェスタといったイベントや桜を管理するボランティア活動が盛んだが、ここはみどり軸には入らないのか。

次に、P34 の「防災」について、「天井川の平地化の促進」とあるが、すでに草津川は河川改修されていると思われるが、今も書かれているのはなぜか。

最後に、「水害リスクの周知や水防意識の啓発」の部分で、集中豪雨やゲリラ豪雨といった文言があってもよいと思うがいかがか。

●事務局

1点目は、将来のまちの構造については、市の地形的な特徴の大枠を示すものであり、現在、市が整備を進めている草津川跡地を、大きな特徴と捉え、みどり軸として示してい

る。草津川については、現在策定中の都市計画マスタープランやみどりの基本計画の中で、位置付けを検討する。

2点目は、草津川については、現在でも、上流域が天井川となっており、管理者である県に対して平地化の要望を行っていることから、当該記載をしている。

3点目は、御意見の内容について、基本計画の中での記載を検討する。

●委員

将来ビジョンの「健幸創造都市」について、健幸都市宣言以降、健幸都市というのはずっといわれてきたが、今回ここに創造を付け加えた意図が知りたい。

●事務局

「健幸」は「生きがいをもち、健やかで幸せであること」と定義しており、今回「健幸創造都市」と表現することで、今後の人口減少などへ挑戦していく姿勢を示している。

●委員

P24 からの下部のイラストで、「まち」の景色しかないため、「田園」「自然」などを表してはどうか。また、つながりを一本の糸と例えるなら、それらをみんなでより合わせることで、より太く大きなものにしていくことをイラスト等で表現してはどうか。

また、社会情勢の変化についての「安全・安心なまちづくりに向けて」のところで、新型コロナウイルス感染症について追記されているが、文章の展開を工夫したほうがよいのではないか。

最後に、新型コロナウイルス感染症の対策について、情報提供のあり方が課題としてあると思うので、行財政マネジメント、危機管理、防災などを絡めて、追記してもいいのではないか。

●事務局

1点目のイラストについては、製本段階で検討したい。

2点目のP16からの新型コロナウイルスについての記載は再度検討する。

3点目の、情報発信については、「ウイズコロナ」「アフターコロナ」「ポストコロナ」「新しい生活様式」など様々あり、また変化していくことが予測される部分もあるので、基本計画の中での記載を検討したい。

●委員

まちづくりの基本目標について、SDGsの17の目標のうち、「11 住み続けられるまちづくりを」と「17 パートナリシップで目標を達成しよう」を合わせると協働の概念になると考えているが、ここで協働をSDGsと分けて、特出ししている理由を教えてください。

●事務局

協働については、第5次総合計画の計画期間中に、自治体基本条例・市民参加条例・協働のまちづくり条例の制定、また、まちづくり協議会の認定など、協働のまちづくりを推進してきた。第6次総合計画では、次のステップへ、協働をより進めていくため、このような整理としている。

●会長

他に御意見はないか。

色々な御意見があったが、将来ビジョンの文言について付け加えると、ビジョンというのは将来・未来に向けてのなりたい姿、あるべき姿を示すものであり、やはり一定のストーリー性によって共感や理解を得ていくことが必要になると感じる。文字量については、自治体でも企業でもビジョンを作られるが、長いものも短いものもあり、一概には言えない。2032年に向けて草津市がなりたい姿を示すものに対して、文字量にこだわることには違和感があり、理解してもらえらるならこの形でいいのではないかと思う。「健幸創造都市」についても御意見が出たが、ほかの自治体よりは遅かったもののまさにこれから高齢社会に入っていく局面で、より意識的に健幸を作り上げていくことが求められることを、この計画で整理したということだと思う。

特別委員会、またこの審議会でもこれまでも何度も意見のあった部分であり、基本構想(案)については、審議会としては了承とさせていただきたい。文言の修正等をいくつかいただいている箇所も、事務局と相談の上、会長に一任していただけるようお願いする。その上で市長に答申したい。

審議(2) 第6次草津市総合計画 第1期基本計画について

●事務局

<資料2について説明>

●委員

自治体基本条例に「基本計画は財政推計を踏まえ、事業によって構成される施策の体系をもつものとする」と示されているように、財政のありようが方針として入るとされるため、「行財政マネジメント」を「組織運営の基本方針」として位置付け、また、「協働」を「市政運営の基本方針」として位置付けてはどうか。

●事務局

「協働」「行財政マネジメント」については、地域経営の方針として整理しているが、具体的には分野として評価しており、第6次総合計画では、これまでの取扱いに合わせて整理したいと考えている。「協働」については、今までより前面に押し出すような形で整理し、基本構想の中でまちづくりのベースとして位置付けている。

●委員

「協働」と「行財政マネジメント」を分野別の施策に落とすと、「4 計画の評価について」の図における「基本方針」の部分が抜けてしまうのではないか。

●会長

基本計画の構成について検討する必要がある。

●事務局

検討する。

●委員

施策の評価について、説明がわかりにくい。また、「評価する」ということは「責任をとる」ということであると考えているが、その点をどう考えているか。

●事務局

施策評価については、施策ごとに毎年度実施するものとなっている。「責任」については、各評価の中でそれぞれの取組状況を的確に判断することで対応できると考えている。

審議（3）リーディング・プロジェクトの検討 について

●事務局

<資料3について説明>

●委員

プロジェクト1「子どもが輝くまちづくりの推進」について、「子どもの生きる力を育む教育や地域への愛着を育む取組の推進」とあるが、地域共生社会の視点を踏まえ、子どもがいることによって社会が変わるといった表現ができないか。

●事務局

表現について検討する。

●委員

プロジェクト4「持続可能なまちづくりの推進」について、「地域特性を生かした地域再生の推進」とあるが、基本構想（案）P26 まちのゾーンでは「地域資源の活用等による地域再生の推進」となっている。この違いは何か。

●事務局

本市では、草津市版地域再生計画を策定しており、地域特性や地域資源を生かした地域再生の取組を推進していることから、当該記載をしているが、表現については整理する。

●委員

プロジェクト1について、「子どもが輝く」の部分で、子どもに限定せず、親の視点も意識した表現ができないか。また、プロジェクト3について、地域コミュニティについての記載をしてはどうか。

●事務局

表現について検討する。

●会長

他に御意見よろしいか。よろしければ本日の審議案件についてはこれで終了とする。

3. 閉会

- 閉会にあたって、田中総合政策部長より挨拶